

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2372201109		
法人名	株式会社サンケイ		
事業所名	グループホームチアフル音明かり・詩明かり(詩明かり)		
所在地	愛知県一宮市北方町菅根字村裏西46-1番地		
自己評価作成日	平成24年9月6日	評価結果市町村受理日	平成25年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2372201109-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2372201109-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号
訪問調査日	平成24年9月19日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

「生きてるってすてき！」と思えるうち作りが我がグループホームの願い。利用者の尊厳を守り、認知症からくる生活障害は援助することによって、あるいはみんなと力を合わせることで生活できるはずと模索している。たとえ認知症の進行があったとしても、その人ならではの役割作りに着目しながら生活している。日々の活動では天気の良い日は散歩に出かけ、雨が降ったら縫物をしたり折り紙をしたり・・・晴好雨読の生活を。地域に認知症を知らせるのも私たちの大切な役割と思っている。どんなことに困るのか。どんな支えがあれば普通に生活できるのか。家族の一杯一杯になってしまう気持ちはどこからきているのか。共に考え続ける事業所として夏祭りや運動会には地域とともに楽しんでいる。年々参加者・ボランティアが増え続けている。近くの児童館からは七夕やクリスマス会のお誘いがあり、子供たちとの交流も大切にしている。付き合いも長くなるにつれ、私たちの得意・不得意が伝わりほほえましい光景を目にすることが増えた。もっともっと出かけて皆さんと交流したいと思っている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①「生きているってすてき」と思える家に！6つの理念を事業所全体で共有して日々のケアの中で実践できるよう努力してる。 ②毎月のミーティングで理念を声に出して読み、実践につなげている。 ③理念に基づきその人らしさを大切にしている。 ④理念の共有を実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	①夏祭り、運動会といった行事で地域の方々とのつながりを大切にし、交流を図っている。ボランティアの受け入れも積極的に行っている ②散歩や外食、喫茶、遠足など、地域とふれあいを大切にしている ③夏祭り等で地域の方にも参加頂いている。 ④夏祭り等の行事を通して交流する機会を設けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	①わかりません。 ②わかりません。 ③よくわかりません。 ④運営推進会議を活かして取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	①運営推進会議で関係者の方々に釣り組状況等について、報告や話し合いをし、情報交換を行っている。 ②参加したことがないのでわかりません。 ③よくわかりません。 ④管理者は市町村との連携を大切にしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	①管理者が市町村担当者と連携し、意見交換を行っていると思う。 ②携わっていないのでわかりません。 ③よくわかりません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	①身体拘束をしなくて良いように、利用者一人一人の様子をしっかり把握し、職員から歩み寄り、玄関の施錠等しないで対応するように努力している。 ②スタッフ人数に余裕がある限り利用者様が自由に出れるように努力している。 ③やむを得ない場合は玄関に施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	①事業所全体で研修を行い、対応などについて職員同士話し合いの場を作り、情報交換を行っている。 ②利用者様の身体を自分の手で傷つけることは絶対にないようケアしています。 ③虐待防止に努めている。 ④勉強会や研修で学び、実践に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	①研修や勉強会に参加し、理解している。 ②まだまだ知識が浅いので、勉強会や個人で勉強します。 ③内容はよくわからない。 ④勉強会・ミーティング・面談等を定期的に行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	①関わっていないのでわかりません。 ②ご家族様に尋ねられた際、わからない時は事務所、リーダーへ聞くようにしています。 ③家族会などで、管理者が説明している。 ④十分な理解・納得を得ていると思う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	①関わっていないのでわかりません。 ②ご家族からの要望があれば可能な限り反映している。 ③外食・遠足など、頻繁に外出している。 ④家族会等で直接意見を聞く場を設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	①職員の意見、提案を聞く機会を設けて下さり、可能な限り受け入れて下さる。 ②携わっていないのでわかりません。 ③意見交換の場がある。 ④運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	①職員との面談があり、何に1~2度話し合う場が確保されている。 ②携わっていないのでわかりません。 ③勉強会の開催によって向上に努めている。 ④就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	①職員一人一人に合った研修に参加するよう促して下さったりレポート提出することになっており、他の職員への勉強へも繋がるようになっている。 ②携わっていないのでわかりません。 ③研修への参加を勧めてくれる。 ④法人内外の研修会・勉強会を勧めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	①外部研修に職員参加、交流会などで、他施設職員と情報交換を行い、サービスの質の向上ができるよう取り組んでいる。 ②毎月の勉強会や研修委員への参加を通して知識やケアを見直す機会がある。 ③よくわかりません。 ④同業者との交流を図り、サービスの質の向上に反映している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	①本人の状況(表情・行動)等を把握し、本人との関わりを大切にし、本人が何を望んでいるのかを見逃すことなく信頼関係を築けるよう努力している ②利用者様が困っている時、不安等の訴えに耳を傾け、安心してもらえるよう努力している。 ③コミュニケーションに努めている。 ④本人の要望など、観察や傾聴に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	①本人の情報から、家族様の言葉を傾聴し、面会時に細かな事を報告している。関係づくりに努力している。 ②ご家族からの要望があればユニット内で話し合い共有している。 ③不安なことに耳を傾けながら努めている。 ④家族の希望は大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	①管理者、リーダーに報告を行い、家族と共に今後の取り組みについて考える。職員間の情報共有を行い、対応している。 ②毎月のミーティング等でアセスメントを行い、ケア内容を話し合っている。 ③その時その時の必要な支援を提供している。 ④本人・家族の意見を大切にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	①1つ1つ行う事に、人生の先輩としてアドバイス頂き、暮らしやすい生活環境になるよう関係を築いている。 ②介護しているという考えはあまり頭にはありません。家族の様な、祖父母のように思っています。 ③信頼関係や絆は強いと思います。 ④能力に応じて、家事炊事を一緒に行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	①本人がどのような人なのか、どういう生活をしてこられたか、今までどういう事に(介護する中で)苦勞されたか支援する仲間として関係を築いている。 ②面会までの時間が長くないよう、行事になるべく参加してもらっている。 ③家族の様な関係になれるよう努めている。 ④行事に参加していただき、一緒に過ごしてもらう		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	①馴染みの方からの連絡、訪問を大切にしておいて本人が安心できるよう取り組みを大切にしている。 ②友人や親族との面会、馴染みの場所や思い出を話題にし、関係が途切れないようにしている。 ③大切にしている人の支援に努めている。 ④馴染みの方に訪問していただいたり、一緒に外出して頂くよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	①利用者同士が上手く関われるよう職員が仲介に入り、孤立しないよう支援する。 ②性格が合わない等の関係性を把握し、孤立しないようなケアに努めている。 ③孤立しないよう楽しい生活が送れるよう努めている。 ④時と場合によるが、本人の希望を重視し、気の合う人と過ごして頂く。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	①数名の利用者がサービス利用を終了しているが、相談や支援は断ち切れている。 ②携わったことがないのでわかりません。 ③よくわかりません。 ④必要に応じて相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	①本人との関わりを密に、本人の考えを尊重し、家族とも話し合い、検討を行っている。 ②ユニットミーティング内でアセスメントしている。 ③ケアマネ・リーダーに相談しながら支援している。 ④本人の意見を大切にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	①入居される前の生活歴、環境などアセスメントシートに記入頂き、全職員が把握している。 ②個人ファイルやご家族の話し等で把握に努めている。 ③本人や家族に適宜情報を頂いている。 ④個人情報記録等から、これまでの暮らしの把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	①一日の生活を(バイタル・生活記録・食事摂取量等)を全て記録に残し、細かい所まで把握するよう努力している。 ②その人の普段の姿をよく観察し、把握に努めている。 ③一人一人の過ごし方の現状把握に努めている。 ④現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	①月に一度、ミーティング時にカンファレンスを行い利用者一人一人について意見交換している。 ②毎月のミーティングで意見を交換し、反映させている。 ③ミーティングを活用し、活発な意見交換を行っている。 ④定期的にプランの見直しをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	①全職員が把握できるように一日を通して利用者様の言動を記録に残している。介護計画の見直しに活かしている。 ②記録、申し送りノート、朝の申し送りで共有できている。 ③職員間の情報共有を大切にしている。 ④毎日、個別に記録を書いている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	①本人や家族のニーズに合わせて、いろいろな視点から支援やサービスに取り組んでいる。 ②その人に合ったケアに努めている。 ③柔軟な支援が出来るよう助言してもらっている。 ④個別に対応している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	①習字・コーラス・手芸といった地域のボランティアの協力を得ている。 ②散歩やおまいり、ゴミ捨て、草むしり等は、その人が出来る事をお願いしている。 ③コーラス・習字等で楽しんで頂いている。 ④地域の行事に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	①月一度の往診や職員の代行にて、適切な医療を受けられるように支援している。 ②医師の往診等、その都度適切な医療が受けられるよう支援している。 ③かかりつけ医にかかり、常に健康管理に努めている。 ④本人・家族の納得を得てからかかりつけ医を決定している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	①看護際にいつでも相談できるような環境が出来ており、ささいなことでもすぐに報告し、適切な受診、看護を受けられている。 ②変化や気付いたことをいつでも看護師に相談できる。 ③個々の利用者が受診や看護を平等に受けられるように支援している。 ④看護師との情報交換は大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	①家族、医師、看護師が話し合い、情報交換を行い、早期退院できるように努めている。 ②病院関係者との関係作りを自らしようとは思いませんでした。すいません。 ③情報交換や相談するように努めている。 ④医療機関との情報交換を大切にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	①重度化、終末期に備えて早い段階から関係者と話し合いをし、方針を決めている。 ②リーダーやユニット内で話し合い、チームケアに取り組んでいる。 ③事業所で、できる事と出来ないことをしっかり説明している。 ④本人・家族と話し合いながら、チームで方針を共有し取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	①急変、事故発生時に備え、施設内で研修、講習会に参加し、職員全員が対応できるように備えている。 ②勉強会や個人で勉強しています。 ③いま勉強中です。 ④急変時・事故発生時のマニュアルがある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	①ユニットごとに、避難訓練を行い、利用者が安全に避難できるように把握している。 ②災害対策、あまり把握できていません。 ③まだ参加できていません。 ④地域との協力体制を築こうと努力している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	①利用者一人一人の尊重、プライバシーが確保されている。特に声かけに配慮している。 ②常に自分だったらと、置き換えてその人らしさを尊重している。 ③排泄時などは、特に注意している。 ④本人のプライドを傷つけないよう気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	①利用者がどのように生活したいのか？何をしたいのか？コミュニケーションを図りながら自己決定出来るよう支援している。 ②スタッフ本位にならず、利用者が自ら動けるように、と心がけています。 ③出来る限り自己決定できる場面を作っている。 ④声かけにて本人の意思を確認するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	①職員の都合に合わせるのではなく、利用者様の立場に立って個別のケアを行っている。 ②どうしても職員側のきまりを優先してしまいがちです。希望に沿ったケアが出来るように努力します。 ③一人一人のペースに合わせ希望に沿うよう努力している。 ④その日の体調などを考慮し、支援方法を工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	①その人の好みが一人一人違う為、美容室の際、好みの髪型がオーダーできるようあらかじめ本人の希望を聞いておいて説明できない時は代弁する。 ②自己で更衣が出来ない方、重ね着をされてしまう方には、「これでいい？」と出来る限り選択して頂いています。 ③朝のモーニングケアでは、衣類の選択や、髪型などで配慮している。 ④身だしなみの声かけをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	①利用者と共に献立をたて、ともに買い物に行き、ともに作り、ともに食べ、片づけるといった食事を楽しむ為の環境作りを行っている。 ②その方の残存機能を活かして共に取り組んでいる。 ③献立をたてる時に食べたいものを聞くようにしている。 ④それぞれの好みに合わせて食形態を工夫している。皆でやれることを分担して食事作りを楽しんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	①利用者一人一人、食べる量も違えば、体調も違うので、その人に合わせて工夫をし、提供している。 ②食事量を記録し、全職員が把握できるようにしている。 ③個々に応じた支援をしている。 ④水分摂取の声かけをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	①口腔内の清潔保持が一番大切だと思っている。毎食後必ず行っている。 ②声かけや介助にて、行っている。 ③自力で口腔ケアできる方には自力ですよう支援している。 ④食後の口腔ケアを大切に、できない人は介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	①一人一人の排泄パターンを把握し、その人に合わせて時間を決めて誘導している。失敗を責める事はしない。 ②排泄チェックをし、パターンを把握し、失禁を避けたい。 ③排泄チェックを行い誘導しているが、間に合わない時もある。 ④排泄のパターンを参考にして、トイレ誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	①状況を理解して、水分量、食事摂取量、排泄パターンを把握し、食事の工夫、軽い運動を心がけている。 ②排泄チェックで把握し、下剤を使用し、便秘を予防している。 ③食事のバランスに気をつけているが、どうしても時は下剤を使用している。 ④水分摂取や日頃の体操に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	①利用者のタイミングや気分に合わせて。職員の都合に合わせて「入りたい」と思えるような誘導の工夫、声かけを行っている。 ②ユニットごとに曜日が決まっている。 ③ゆっくり入ってもらっている。入浴剤を入れている。 ④拒否する場合でも説得はするが、強制はしない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	①利用者が安心して眠れるように、不安の訴え等がある時は時間をかけ傾聴、うなづき対応行う。安心できるまで一緒に時間を過ごすよう支援している。 ②睡眠前に不安な気持ちにならないよう傾聴し、安心して眠れるよう支援している。 ③体調に応じて休んでもらっている。 ④昼夜逆転しないように、時間を決めて休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	①利用者の中で、整形・内科等、多科受診している方がいる。いくつもの薬を併用しているため、副作用や変化がないか、常に見守りを行っている。 ②カルテを読み返し、しっかり把握できるよう努めている。 ③あまり薬について理解できていません。 ④服薬支援と症状の変化に気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	①利用者が興味を持ち、得意なことを活かし、役割を作る。時には利用者全員で楽しめるゲームを行っている。 ②その方の好きだったこと、得意な事を活かし、気分転換に努めている。 ③出来ている方と、そうでない方がいる。 ④個別ケアに力を入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	①「行きたい」と要望があった時は、始めから無理と決めつけず、実現できるよう、職員、家族と協力し、実現に近づけるように支援している。 ②散歩やおまわりを習慣づけている。その他、外食、遠足等に出かけられるよう努めている。 ③本人の希望を聞くようにしている。 ④天候や、体調に配慮しながら、遠足の場所や工程を決めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	①お金の所持は行っていないが、買い物に出かけたときに使えるように支援している。 ②買い物時には本人がほしいものをいつでも購入できるよう支援している。 ③金銭管理できている方はいないが、いつでも使える事を伝えている。 ④時と場合によっては、お金を使ってもらうが、管理は職員が行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	①要望があれば家族様への現状報告と共に、本人へかわり、やり取りできる環境がある。 ②電話や手紙の機会は少ないのですが、機械があればいつでもできる環境である。 ③手紙をやり取りしている方もいる。 ④希望があれば電話も手紙もいつでもやり取りできる環境が整っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	①利用者様が楽しく生活できるに本人が作成した習字等の作品を掲示したり、季節に合わせた壁紙を掲示する等工夫している。 ②なるべく居心地の良い空間を提供したい。 ③季節感が出せるよう工夫している。 ④朝の掃除は毎日行い、快適な環境の提供に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	①ソファ、テーブル、椅子など、全ての状況に対応できるよう配置に工夫している。個別で過ごせるよう配慮している。 ②食卓等の場所の指定はせず、誰がどこに座ってもよい雰囲気を作っている。 ③声かけ等で、居場所の確保に努めている。 ④それぞれの状況に合わせて配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	①本人の馴染みあるものを本人を含めご家族と相談しながら安心して生活できるよう環境作りに努めている。 ②居室には本人の嗜好品等、自宅かのような工夫をしたい。 ③掃除・空気の入替え・布団干し等を行っている。 ④本人と家族の希望を聞き入れるように努力している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	①利用者様が安全に歩行できるように、手すりをつけたり、段差をなくすといった工夫をしている。 ②自室にはその方の馴染みのあるものを置いたり、事由に使って頂いている。 ③今のADLに合わせて出来る限り自立した生活を送って頂けるよう努力している。 ④自立した生活を送れるよう、個別に工夫している。		

(別紙4(2))

事業所名:グループホームチアフル音明かり・詩明かり(詩明かり)

## 目標達成計画

作成日: 平成24年8月20日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	21	利用者様同士の関係づくり。 相性の悪い方との介入の方法	個々の愚痴、悪口、いじめを減らす。 個々の出来ることをして頂き役割づくりを行い気分よく生活して頂く。	食事時の席の配置を考慮し、悪口が減るよう介入する。 利用者同士が協力して家事がこなせるよう役割を与える。男性ならではの役割をみつけ日課とできるようにする。	6ヶ月
2	42	口腔内が不潔になっている利用者様がいる。	毎食後の口腔ケアが日常的に行えるよう職員に対する意識付けと、困難な方への介入の方法を統一していく。	毎食後、全員が口腔ケアを行う。またそのこえかけ、介助を徹底する。 口腔ケア後は、磨き残しがないか口腔内をチェックし、仕上げ磨きを行う。	3ヶ月
3	50	買い物時は職員で金銭を支払っている。	支援しながらも、利用者の残存能力を生かし、レジでの支払いをして頂く。	買い物の支払い時等では、利用者に財布を渡し、言われた金額が出せるよう支援していく。出来る喜びを感じてほしい。	3ヶ月
4	35	災害時の対応策が甘い	迅速かつ的確な判断と行動ができるよう職員の意識を高める努力を行う。	マニュアルを見直し、改善した方がよいと思われる個所は積極的に改善していく。チームで行動できるよう訓練を行う。	12ヶ月
5					ヶ月